

# ジャパン・ツーリズム・アワードに インフラツーリズムの取組が入賞しました！

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課\*

## 1. はじめに

インフラは日常の生活や経済活動を支え、まち並みの整備で地域をより魅力的な観光地にしたり、交通網の整備で観光地へのアクセスを向上させたりと、観光をはじめとした地域経済の活性化及び持続的な存続に重要な役割を果たしている。

インフラは私たちの生活に密着した不可欠なものであり、インフラへの理解を深めてもらうため、以前から施設管理者や工事関係者は土木広報として現場見学会を行ってきた。構造物の圧倒的な「スケール感」、普段入れないインフラの内部や今しか見られない工事風景など「非日常」の体験ができるため、近年では「インフラツーリズム」として、インフラそのものを観光資源として活用することが注目されている。

また、「観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」といった視点を柱に立てて、「明日の日本を支える観光ビジョン」を平成28年3月に策定しており、政府全体で観光施策に取り組んでいる。観光ビジョンの施策のひとつとして、「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」を挙げており、公的施設として、たとえば赤坂や京都の迎賓館では、年間数日に限定されていた一般公開を、接遇等に支障のない範囲で可能な限り

通年で公開・開放を行っており、人気を博している。インフラも公的施設のひとつとして、観光を通じた地域振興に資するべく、「インフラツーリズム」が各地で実施されている。

各地のインフラツーリズムの取組が魅力ある観光地域づくりや地域活性化に資することが評価され、第5回ジャパン・ツーリズム・アワードに入賞するに至った。

## 2. ジャパン・ツーリズム・アワード

### 1) 概要

ジャパン・ツーリズム・アワードは公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会（JATA）、日本政府観光局（JNTO）が主催となって2015年から開始した表彰で、今年で第5回となる。

同賞は、ツーリズムの発展・拡大に貢献し、国内・海外の団体・組織・企業の持続可能で優れた取組を表彰するもので、受賞取組を広く社会に知らしめることで、ツーリズムへの理解を進めると共に、モデルとしてさらなるツーリズムの発展に寄与することを目的としている。

同賞は、領域・部門を分けた募集、表彰を行っている。領域は、国内旅行および訪日外国人旅行の拡大・活性化への取組である「国内・訪日領域」と日本からの海外旅行需要の拡大・活性化への取組であ

\*03-5253-8111 (代)

表-1 国内・訪日領域の地域部門に入賞したインフラツーリズムの取組

<p><b>湯田ダム（錦秋湖）を活用した地域活性化</b> 湯田ダムビジョン推進協議会</p> <p><b>世界最大の吊橋を観光資源として活用する取組</b> 本州四国連絡高速道路株式会社</p> <p><b>官民協働による「首都圏外郭放水路」見学会</b> 首都圏外郭放水路利活用協議会・東武トップツアーズ株式会社</p> <p><b>「日本一のインフラ観光ツアー」やんばツアーズ</b> 国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所</p> <p><b>琵琶湖疏水通船復活と疏水沿線魅力創造に向けた取組</b> 琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会</p>
--

る「海外領域」の2領域を設けている。そして、領域ごとに、国内外の交流人口の拡大やツーリズム業界の価値向上に大きく貢献した事業性のある取組を対象とする「ビジネス部門」、国・地域の観光関連組織が一体となって進める魅力ある観光地域づくりや国・地域固有の観光資源を活かした総合的地域活性化に結びつく取組を対象とする「地域部門」の2部門を設けている。

## 2) インフラツーリズムの受賞

第5回ジャパン・ツーリズム・アワードにおいて、インフラツーリズムの取組5つが、国内・訪日領域の地域部門に入賞した（表-1）。

5つの受賞取組のうち、湯田ダムと首都圏外郭放水路でのインフラツーリズムの取組について紹介する。

岩手県にある湯田ダムでは、春の雪解け時の水位調整のため行うスプリング放流の際にダム堤体内見学を開催しており、迫力ある放流を真横から見ることができるため好評を得ている。また、地元温泉旅館施設とタイアップした宿泊者見学プランを設定し、宿泊者のみの見学エリアからの放流鑑賞を特別特典として用意しており特別感を演出している。さらに、ダムによってできた人工湖である錦秋湖内にある貯砂ダム（錦秋湖大滝）のライトアップ（写真-1）やSUP（ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面

を進んでいくウォータースポーツ）等の独自のイベントやアクティビティを用意し、地域の飲食施設や温泉施設等、関係機関とも連携しながら、観光による地域活性化を進めている。

埼玉県にある首都圏外郭放水路（写真-2）では、普段は見ることの出来ない地下に大きな柱が並ぶ大空間が広がっており、その様子から「地下神殿」と



写真-1 貯砂ダム（錦秋湖大滝）

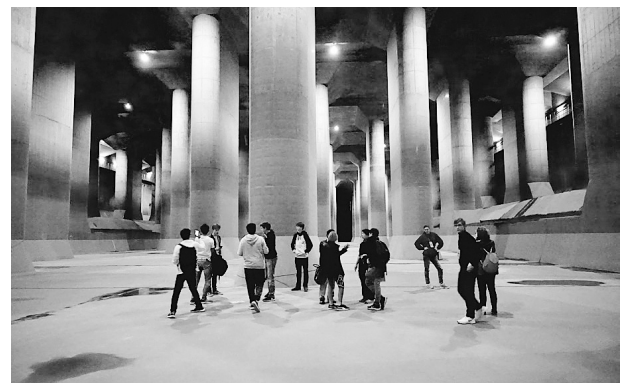


写真-2 首都圏外郭放水路



写真-3 明石海峡大橋（登頂部より）



写真-4 ハッ場ダム

も呼ばれ、まさに「非日常」の空間である。2018年に「首都圏外郭放水路活用協議会」を立ち上げ、民間開放に向けた枠組みを協議し、民間事業者と連携協定を結び、見学会の企画運営を民間事業者が行うことになった。これにより、今まで実施できなかった土日祝日にも見学会を開催し、受け入れ枠を大幅に拡大したことにより、昨年度は年間3万5000人を超える見学者が来場している。また、地下神殿コンシェルジュとしてガイドを育成・配置しているほか、英語版・中国語版のパンフレットを用意して外国人観光客への対応も行っている。

### 3) 受賞の意義

今回、受賞に至ったインフラツーリズムの取組は、インフラ施設においてこれまで実施してきた土木広報としての見学会に付加価値をつけて、人が呼べる観光資源へインフラを磨き上げ、そして、広範囲からインフラへの見学者を呼び込み、さらに、インフラが設置されている地域の方々と連携して周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促している。インフラツーリズムの理念は地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することであり、同賞を受賞したことはまさに、インフラツーリズムが魅力ある観光地域づくりや地域活性化に資することが認められた



写真-5 びわ湖疏水通船  
写真提供：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会

結果である。

### 3. おわりに

我が国における観光資源は自然や文化、食など、多種多様にあるが、地域の自然環境・文化に対応したインフラもまた地域固有の資源である。

「スケール感」や「非日常」を楽しむ機会として注目されているようになったインフラツーリズムが、地域に人を呼び込み、地域づくりや地域活性化の一助となるよう、国としてインフラツーリズム拡大のための取組を意欲的に進めていくとともに、各地域での魅力的な取組が増えていくことを期待したい。